

2022.10.27. 木曜礼拝 置換神学 Mac 牧師

それでは。今夜の学びを始める前に、ご一緒にこの教えに神の祝福を祈りましょう。愛する天のお父さま、ただ、あなたの存在に感謝します。主よ、今晚、あなたの御言葉に触れるとき、どんなに厳しい言葉であっても、ここにいますべての人を祝福してくださいますよう祈ります。

主よ、それらは慰めでもあります。私たちは、今それを求めます。あなたの聖域、あなたの教会で、あなたの力と強さによって、私たちを迎えてください。私たちに語り、教えてくださり、喜んで聞く耳を与え、受けとる心を備えさせてください。今、あなたに感謝します。力強い救い主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン。そうなりますように。

今夜の私たちの学びのテーマは、「置換神学」です。おお、大丈夫ですか？ また、「超分離主義」とも言われています。また、この神学を信じる人たちが好んで使う名称が他にもいくつかあります。この教義は今に始まったことではありません。実際、私たちは「日の下には新しいものはない」ことを知っています。

(伝道者の書 1:9)

しかし私は、この教義を信じるクリスチャンだと公言する人々が、こんにちに至るまでいかに多いかということに、非常にショックを受けています。これは、私にとっては、全く問題ないことです。特に、私たちが生きているこの時代には、預言が目の前で展開されています。多くのクリスチャンと公言する人々が、意図的であろうとなかろうと、この教えの下に座り続けていることが、非常に明らかになってきています。彼らはこの教義を真理として受け入れているようです。しかし、それは真理ではありません。偽りです。これを教え、推進する聖書的な組織について、驚く方もいらっしゃるかもしれません。皆さんに聞いていただきたい一言があります。それは、神のことを語っている教師、教団、ミニストリー、運動、イベントなどに、その中核となる教義を調査せずに従うことは決してあってはならないということです。これが私たちのやるべきことであり、やらなければならないことです。人々がこう私に尋ねるとき、「ねえ、これ行ってみない？」「この牧師を見ました？ この先生を見ました？」「神や神のことを扱っているあれやこれに参加しませんか？」

一旦立ち止ることをお許しください。私は調べるために、一旦立ち止ります。私たちのやり方をよく見てください。多くの方は、クリスチャンだと、キリストにある者だと言いますが、そうではありません。こういうことは、時間をかけて調べる必要があります。私たち全員がそうすべきだと信じています。というのも、多くの方が話題的な教えに騙されてしまうからです。人々は、「おお、〇〇グループは、こんなことをよく教えているね。」そうかもしれませんね。しかし、それが彼らの目的であり、あなたを引き付け、気持ちを動かし、そしてあなたが従うように偽りの教義を携えてやって来ます。だから、それに注意してください。最高の嘘は、たくさんの真実が振りかけられているのを忘れてはいけません。悲しいことに、今夜はこのテーマを十分に紹介する時間がありません。特に、神のご計画に関する事柄について、教会がイスラエルに取って代わったと信じている人は、あらゆる話題と同様、自分自身でこの問題を調べることをお勧めします。しかし、それはそれとして、今夜はこんな話をしましょう。まず第一に、主の御心であれば、超分離主義の、基本的な定義を示していきます。次に、置換神学に関する簡単な歴史について説明します。そして、聖書から、この教義を明確に打ち砕く神の御言葉を検証します。最後に、主の許しを得て、この思想を支持する既存の教会を簡単に挙げていきます。準備はいいですか？ 祈ってください。もしあなたが、特にこの教えの後に、明らかに神の御言葉に反するこれらの思想や運動に所属していることに気づき、それでもそうすることを選ぶのであれば、私はただ主にあって、そのことをあなたに

委ねたいと思います。説得する必要はありません。それが、とても居心地が良いのです。ただ真実を語ります。御言葉に、獅子に、あとはお任せします。では、超分離主義を定義してみましょう。引用します。

「超分離主義とは、新約聖書の教会こそが、神に選ばれた民としてイスラエルという国家に永遠に取って代わる新しい、あるいは真のイスラエルであるとする解釈のことである。」

これが置換神学の正体です。まず、この混乱の多くは「選ばれた民」という言葉に起因していることを、心に留めておいてください。「選ばれた」「神に選ばれた民」という言葉でさえ、多くのクリスチャンを混乱させています。この教えの後半で、主の御心なら、そのことに触れます。タイトルだけで、多くのクリスチャンが混乱します。それは、初期の教会とユダヤ人がどのように絡み合っていたかが原因であり、彼らは混乱します。イスラエルという国家と教会は別の存在であることを理解する必要があります。同じものではありません。まず初めに、イスラエルは神の選ばれた民です。しかし、キリストの体とは神の教会です。神の選ばれた民もキリストの体の一部であるにも関わらず、彼らは包括的ではありません。

聖書から、イスラエルという国家がエジプトから生み出されたことが分かります。出エジプト記2章と3章にある通りです。具体的に教会が誕生したのは、「使徒の働き」2章に収められているように、ペンテコステの時です。また、イスラエルは神に対して民族的、さらには物理的な一体性を持っていることがわかります。

一方、教会は神に対して、霊的な一体性を持ちます。イスラエル国家へのすべての約束は、地上の約束であることに注意してください。一方で、教会へのすべての約束は、天の約束です。

また、イスラエルの使命は、すべての国を祝福することだったことも注意すべきです。一方、教会の使命は、福音を宣べ伝え、すべての国の人々から弟子を作ることです。しかし、イスラエルも教会も、世界の基ができる前から選ばれていました。これは神にとって驚くことではなく、プランBでもありません。神はいつもこのようになさるのです。これはポイントを押さえるための短いリストですが、私の言っている意味がわかるでしょうか。もっと見つけられると思います。ポイントは、イスラエルと教会は、多くの点で密接に関係しているにもかかわらず、同じではないということです。真理の御言葉を正しく読み取ることは、非常に重要なことです。特にこの置換神学を扱う場合は、多くの優れた学者が、つまり多くの学者が、この点を間違えています。おそらく初期の教会時代には、これがもっと許されていたでしょう。しかし、こんにちクリスチャンである私たちは、この誤りを犯すわけにはいきません。私たちには何の余地もありません。そこで今度は、そもそもこの悪い神学を引き起こした、歴史上の重要な要因を見ていこうと思います。その理由のひとつは、教会が国家の宗教の一部となったことと関係があります。

これがいかに問題であるかはおわかりいただけるとと思います。だから、今度は政治が絡んできます。政治は、神の御言葉がどう教えられていたかを揺り動かし始めました。なぜか？ この支配者たちは、こう言われるのです。「ある日、イエスが戻って来る。」支配者たちは、こんな感じです。「そうか、分かった。」

「ええ。そしてどうなるかという、イエスは世界を支配される。」「本当か？ 私はどうなる？」「イエスは鉄の杖で支配され、全世界の悪の国をすべて滅ぼされる。」では、支配者はなんと云いますか？「黙れ！ そんなことを語るな！」そうですね？ 怒ります。その言葉は不快にさせます。それは彼らの商売に支障をきたすからです。それは、権力者に対する告発でした。そこで、初期の教会開拓者の一人、アウグスティヌスという名の方は、これを解決するために、過剰なまでにある手法を採用します。彼はこのような聖書解釈学を用いて、御言葉を比喩的に解釈したのです。それが彼がしたことです。

「キリストは私たちの心の中に住むために戻ってくる。」こういうことが起こり始めました。この寓話を

超えた聖書解釈学のスタイルのために、最初に生まれたのが、無千年王国説でした。それが生み出されました。アウグスティヌスは、教会、初期の教会に関連する多くの良いことをしましたが、彼の教義の中核には、無千年王国主義がありました。また、信仰を通して恵みによる救いに関して、マルティン・ルターが成し遂げたそれらの良い行いの全てに注目する必要があります。素晴らしいことでした。しかし、彼の教義の中核には、この信念もありました。この教義から、置換神学の様々な信念が顕著になっていったのです。初期の教会で支配的であったとさえ言えるでしょうし、こんにちの多くのクリスチャンでさえもそうでしょう。初期の信念と言いましたが、超分離主義という、大きく3つの概念があるようです。

イスラエルの不従順が原因で、神が彼らを永遠に追放したと考える人たちがいます。そのために、教会はイスラエルの立場に置かれてきたと。霊的なイスラエル、真の解決である教会を指し示すために、イスラエルは物理的な解決であったと考える別の立場もあります。だから、教会の位置づけがそうなっているのです。そして、新約聖書こそ、私たちが力を注ぐべきところだという信念もあります。旧約聖書原義に取って代わるという意味です。ですから新約聖書を読んで、旧約聖書に書かれていることがそれを指し示していても、「ああ、本当はそんな意味じゃなかったんだ」と言うことができます。このようなことが起こります。そこで、この寓話的なスタイルの解釈学が続けられました。その主な成果のひとつが、この置換神学です。さて、置換神学に関するいくつかの明らかな問題は別として、初期の教会まで遡ることはほとんどないものがあります。それは、この思想が、人類が知る限り最も反ユダヤ的な行為のいくつかを主導してきたという事実です。聖アウグスティヌスさえも、これら言葉を書いています。引用します。

「神が見捨てられたイスラエルの家は、自らが破壊の建設者であり、礎石であるイエスを拒む者である。主キリストは、忠実な者とユダヤ人の敵とを区別された。」

さて、私はアウグスティヌスや他の初期の教会の父たちが、教会のために多くの良い仕事をしたことを非難するつもりはありません。しかし、考えてみてください。アウグスティヌスやマルティン・ルターのように、このような知識を持った人が、その知識でこの流れに乗ることができたとしたら、その知識や霊的識別力を持たない人が、キリスト教の旗印のもとにユダヤ人に対して、いかに簡単に悪事を働くことができるかがわかると思います。皆さん、ついて来ていますか？ この発言や他の発言でさらに問題なのは、彼らは皆、イエスがユダ族の出身であることを忘れていたということです。また、初期の教会にはユダヤ人がたくさんいたことも忘れていました。教会を始めたのは、ユダヤ人です。しかし教会はユダヤ人のほとんどを失い、その根源をすべて失うことになります。紀元70年の神殿破壊から始まり、紀元135年のエルサレム破壊で頂点に達します。今では、初期の教会に接ぎ木される異邦人が増え、エルサレムと神殿の破壊を、イスラエルの子に対する神の裁きと考える人が多くなっています。ですから、アウグスティヌスなどがその立場になった時、すでに数百年前から反ユダヤ的なテーマが存在していたのです。この点について、アウグスティヌスには公平でありたいと思います。なぜなら、彼は置換神学に関しては、比較的穏やかな考え方を持っていたからです。彼はそうでした。

マルティン・ルターは、穏やかな始まりで、最後は荒々しく終わりました。ある時、彼は自分がユダヤ人を連れ戻すのだと考えていました。それが実現しなかったとき、彼は反ユダヤ主義者になりました。アウグスティヌスは最終的に、ユダヤ人は救われると信じていました。「回復される」ではなく、「救われる」です。違いがあります。しかし、教会がキリストの名のもとに、どれほどユダヤ人を迫害したかは、いくら強調してもしすぎることはできません。十字軍が、そうしました。それが彼らの役割の一つでした。多くの司教がこの思想を推進しました。ユダヤ人にとって非常に有害なことでした。そしてもちろん、どう

なりましたか？ ヒトラーは、このような側面を利用して、教会を思いのままにしました。これほど極端になるのです。こんにち、反ユダヤ主義の台頭に拍車をかけているクリスチャンであるという旗印を掲げたグループがあります。悲しいことです。そしてもう一つの問題は、この置換神学の信念が、神を嘘つきにしまうことです。皆さん、聞いていますか？ 神を嘘つきにしまいます。それは、人々の聖書への理解を大きく妨げてしまうのです。

ここからが本題です。まずは契約から始めます。神がイスラエル国家と交わされた契約です。

第一に、神は国家としてのイスラエルと永遠の契約を結んでおられます。いつも木曜日の夜に読み進めているエレミヤ書に書いています。31章35節から36節です。神の御言葉をお読みします。

—エレミヤ 31:35—

主はこう言われる。太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名が万軍の主である方が。

—エレミヤ 31:36—

「もしも、これらの掟がわたしの前から去ることがあるなら 一主のことば— イスラエルの”子孫”は絶えて、わたしの前にいつまでも一つの民（国）であることはできない。」

私たちは、先週か先々週に読みました。「子孫／種」という言葉に注目してください。なぜなら皆さんは、この「種」という言葉が物理的な子孫を意味することをご存知でしょう。イスラエルは、真の生ける神の御前では、常に物理的な国家です。常に。これは変わりません。

また、神はイスラエルとの間に永遠の地の契約を結ばれています。創世記13章15節に書かれています。神の御言葉をお読みします。

—創世記 13:15—

わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に”永久に”与えるからだ。

永久に。これは、アブラムがアブラハムと名を改める前に、神がアブラムと交わされた契約です。また、この契約がどれほどの期間にわたっているかを見てください。神の御言葉には永遠だと書かれています。なぜ神が遊んでおられると思いますか？ なぜ、誰もが？ この土地はアブラハムの約束の物理的な子孫のためのもので、それはイスラエル国家です。このことは、詩篇105編8節から11節にも共通しています。お読みします。

—詩編 105:8—

主はご自分の契約を”とこしえに”覚えておられる。命じられたみことばを 千代までも。

—詩編 105:8—

主はご自分の契約を”とこしえに”覚えておられる。命じられたみことばを 千代までも。

—詩編 105:9—

それはアブラハムと結んだ契約イサクへの誓い。

—詩編 105:10—

主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの”永遠の契約”として。

—詩編 105:11—

そのとき主は言われた。わたしはあなたにカナンの地を与える。あなたがたへのゆずりの地として。」

神は同じテーマを念頭に置いて、何度も何度も神の民にメッセージを繰り返しています。神は決して私

たちを騙そうとはなさいません。どちらかという、神は私たちに教育しようとされます。神は言われたとおりのことをなさいます。また、神はイスラエルとの間に永遠の王座の契約を結ばれています。詩編 89 編 34 節から 37 節に書かれています。お読みします。

—詩編 89:34—

わたしは わたしの”契約”を汚さない。唇から出たことを わたしは変えない。

—詩編 89:35—

わたしはかつて わが聖によって誓った。わたしは決してダビデに偽りを言わないと。

—詩編 89:36—

彼の”子孫”は ”とこしえまでも”続く。その”王座”は 太陽のように わたしの前にあり

—詩編 89:37—

月のように ”とこしえに”堅く立つ。その子孫は 雲の上の確かな証人である。」セラ

ダビデ王はここで、神の霊によって、その王座は永遠に確立されると語っています。ダビデの子孫は永遠に存続すると。ここでもまた、物理的な子孫と、終わりのない物理的な王座が登場します。これは、神が破られることのない契約です。神は何一つ、破られません。ここに注目してください。神は変えられません。ですから、誰もこうは言えません。「まあ、こういう意味もあったんですね。」神は、「変えない」と仰っています。ただ破られないだけでなく、神は契約を変えられません。神は嘘をつくことがお出来にならないので、変えられません。神が変わることはあられません。面白いのは、私たちが考えを変えることです。私たちは立場を変え、プロセスを変え、服を変える。すべてを変えます。しかし、神は変えられません。神は変えられないことに感謝します。想像できますか？「今日は、神の御言葉は何と語っているかな？」また、神はイスラエルとの間に永遠の王の契約を結ばれています。これもまた、エレミヤ書に書かれています。33 章 20 節から 21 節です。お読みします。

—エレミヤ 33:20—

主はこう言われる。(ここ聞いてください)「もしも”あなたがたが”、昼と結んだわたしの契約と、よると結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、

—エレミヤ 33:21—

わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。

王が治められます。ダビデの子と呼ばれる者が。これは契約です。繰り返しますが、それが破れることはあり得ません。考えてみてください。神は私たち、あるいは神に挑戦する者に「もしあなたがわたしの契約を破れるなら」とかけておられます。神はすべての人に知らせておられます。それでも、多くの人が混乱しています。そして最後に、神はイスラエルと、彼らが永遠に確立される王国を持つという契約を結ばれておられます。これは、第二サムエル記 7 章 12 節から 13 節に見られます。お読みします。

—IIサムエル 7:12—

あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後におこし、彼の王国を確立させる。

—IIサムエル 7:13—

彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の”王国の王座をとこしえまでも”堅く立てる。

ここまでついて来ていますか？ そう祈ります。私たちは御言葉から知っています。終わりのない物理的な王国が存在すると、私は心から信じています。そして、それはイスラエル国家に関わることです。彼らは救われるだけでなく、聖書通りに完全に回復するのです。これらは、物理的な5つの契約です。恵みの数です。契約は成し遂げられます。ところで、これらの物理的な契約には、私たちクリスチャンへの数多くの霊的な意味があります特に神の御言葉の解釈の仕方について。これらの契約は、イスラエル国家のためのものです。それらは破られたり、教会に移されたりしていません。イスラエルと教会はこれまでも、これからも同じものにはなりません。聖書の中にイスラエルという言葉が出てきますが、それは本当にイスラエルを意味しています。そういう意味です。実際、聖書にはイスラエルまたはイスラエル人という言葉が2566回ほど出てくることが分かっています。聖書の中で、主ご自身の次に語られているのがイスラエルです。ということは、それなりに重要な意味を持つということでしょう。そう思いませんか？

ギリシャ語の新約聖書の中で、イスラエルは77回ほど言及され、神の御言葉の中で捉えられたすべての場面で、イスラエルという国家の同一性を指しています。ピリオド。教会ではありません。しかし、あらゆる偽りの教義と同様に、必ずどこかの節か聖句を引っ張り出してきて、「ほら、これはどうだ」と言う人がいるようです。それが彼らの誤った神学の錨となります。彼らはそれに従って走ります。まあ、ここにもあるのですが。しかし、もし私たちが自分自身が正しいことを示すために勉強するなら、神の知識に逆らうすべての議論を沈黙させ、それらの要塞をすべて打ち砕くことができます。そうですね？

彼らの心と意思を捕らえ、キリストへの従順に導くのです。そのためには、御言葉を知らなければなりません。そこで、これからお話しするこの節を見る前に、時間の節約のために、文脈を整理しておきたいと思います。使徒パウロは、聖霊に促されてガラテヤ人への手紙を書きました。なぜか？

なぜなら、パウロがガラテヤに教会を建てた後、ユダヤ教徒が入ってきたからです。彼らは、イエス・キリストを信じる者は皆、割礼を受けなければならないと言って入ってきました。そして、人々はそれを信じました。そこで彼らは、使徒パウロが教えていたことすべてに反することを実践し始めたのです。行いではありません。あなたは何も出来ません。パウロは、このガラテヤ人への手紙を書き、その問題に受胎から誕生まで取り組みます。そして今、パウロはこの手紙を締めくくっています。この手紙は、クリスチャンになった異邦人にも、クリスチャンになったユダヤ人にも、すべての人に宛てたものであることを知らせています。ここに私たちは飛び込んでいきます。それを踏まえて、問題の箇所は、ガラテヤ書16節、章は…6章だと思えます。そうですね？ それでは、15節から始めます。お読みします。

ーガラテヤ 6:15ー

割礼を受けているかいないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。

パウロは手紙の最後を締めくくっていることを忘れないでください。そして16節にこうあります。

ーガラテヤ 6:16ー

この基準にしたがって進む”人々”の上に、そして”神のイスラエル”の上に、平安とあわれみがありますように。

おっ…、「神のイスラエル」翻訳が良くない NIV 訳でさえも、「神のイスラエル」と書かれています。このように飛び込んできたのです。しかし、ここで読んでみると、「人々」とは誰なのでしょう？ 「人々」？ 異邦人と神のイスラエル、キリストのもとに来たすべてのユダヤ人たちです。新しい創造とは、教会です。ことばの問題です。さらには、そこには文脈があります。文脈を理解すれば、使徒パウロがここで何をしたのかがよく分かります。パウロが訴えたのは、その点です。ユダヤ人と異邦人に関することなの

で、少し専門的な話をしたいと思います。なぜなら、イスラエルの家の外はすべて異邦人であるというのは事実ですよね？ イスラエルか、異邦人か。いいですね？ しかし、私たちがクリスチャンになると、教会の下に入ることになります。キリストの体です。これは非常に難しいことですが、まさに真実です。キリストの下にある個々の異邦人として、私は教会の下にいます。だから聖書によると、教会の誕生後、3つの段階の人たちがいました。ユダヤ人やイスラエル国家があり、異邦人の他のすべての国々があり、そして、教会やキリストの体があります。ついて来ていますか？ 私たちは皆、キリスト・イエスによって新しく造られた者です。私たちは皆、体のすべての部分で教会を構成しています。イスラエルの約束や目的を吸収することはありません。それが事実です。そして、これも超分離主義の根本的な問題点です。彼らは、神のご計画におけるイスラエルの目的を十分に理解していません。また、イスラエルと教会を含む預言や二重預言があるのはこのためです。結局彼らは、何かを作り上げなければなりません。

イスラエルと教会の関係を断ち切ることができないので、いろいろな解釈をしなければならないのです。その主な事例を紹介します。マタイによる福音書 24 章と 25 章に収められたオリーブ山の説教と関係があります。そして、ヨハネ書 13 章から 17 章に収められている上の階の部屋(最後の晩餐の部屋)の話があります。この2つの出来事は、全く異なる焦点を持つ別々の出来事です。

まず、「オリーブ山の説教」は、オリーブ山で弟子たちに語られたことを理解する必要があります。おかしいのは分かっていますが、そうなのです。その一つを確認しましょうか？ そして、今夜は説明ませんが、多くの要因に基づいて、それは週の初めの日に与えられると見ています。ある人は二日目、四日目だと信じており、三日目、六日目だという説もあります。しかし、聞いてください。それは2つの別々の日にあったということです。上の階の話は、上の階で与えられ、過ぎ越しの食事の別の日のことです。オリーブ山の説教のすべては、イスラエルに焦点が当てられていて、上の階の部屋の話は、来たるべき教会を視野に入れて見えています。見てみてください。そのすべての話に、イスラエルに特化した預言があることに注目してください。一方で上の階の部屋では、イエスは神の摂理がやってきて、教会が建て上げられるという話もされています。そして、オリーブ山の説教では、イスラエル国家が、来たるべき大艱難に直面することがわかります。上の階の話では、教会が来たる携挙を待ち望むことに直面しています。ヨハネによる福音書 14 章 1 節から 3 節に、私たちがよく知っている「携挙」のことが書かれています。しかし、オリーブ山の説教の中には、見当たりません。どこにも。それには理由があります。これが、真理の御言葉を正しく見分けるということです。なぜなら、超分離主義者やそのような名前を持たない多くの人々は、教会の一部に過ぎず、この2つを教会の下に統合してしまうので、様々な混乱を引き起こしてしまうからです。マタイによる福音書 24 章 25 章は、イスラエルのことを語っていて教会のことではありません。なぜなら、自分たち教会がその中にいると考えた時、どうなりますか？ キリストの花嫁はどうなりますか？ ボッコボコにされるのです。花嫁は何の意味もありません。教会の目的は何だったのですか？ そうすると、教会が神の御怒りを受けるということになります。特に旧約聖書に当てはめると、その大患難時代の中にイスラエル国家に何が起こるか、それが語られています。聖書によれば、3人に2人は殺されます。私たちは、それが全く別の出来事であることを知っています。第一テサロニケ 5 章 9 節から 10 節をお読みします。

— I テサロニケ 5:9 —

神は、私たちが御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。

ー I テサロニケ 5:10ー

主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目を覚ましていても眠っていても、主とともに生きるようになるためです。

私たちは御怒りに定められていません。私たちがこれを見、これを信じ、これを理解することを願います。これは決して逃げではありません。「ああ、イライラさせるなあ。携拳はただの逃げだろ？」

そうですか？ 携拳が逃げであると話す人々のほとんどは、義務付けが下ったとき、イエスを賛美することができなかつた人々でした。どうなのでしょう。どうにかして患難時代を乗り越える強さを見出すのでしょうか。

「ああ、そうこなくっちゃ。いや、覚悟を決めてやる。」そうですか。どうぞ、ご準備ください。主は、私たちはいなくなると言っておられます。正気であれば、誰もこんな恐ろしい目に遭いたくないと思うでしょう。今、私たちはさまざまな試練に直面しているかもしれませんが、気を失うほどではありません。大艱難の間、最後の3年半の間...ああ、なんと...考えられません。J.D.牧師がよく話されるように、ユダヤ民族はその全てにおいて大きな役割を担っています。それが真実です。神はご自分の民を見捨てられていません。この点を強調するために焦点を当てたいと思います。ローマ書の中で、使徒パウロは、いわばユダヤ人の年表のようなものを示しています。ローマ書9章から始まり、10章、11章までです。その章では過去、現在、未来を順番に教えてくれています。手短かに、パウロがいた時代を、将来とあわせて見ていきたいと思います。ローマ書11章1節から5節。お読みします。

ーローマ 11:1ー

それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。

ーローマ 11:2ー

神は、前から知っていたご自分の民を退けられたのではありません。それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。エリヤはイスラエルを神に訴えています。

ーローマ 11:3ー

「主よ、彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」

ーローマ 11:4ー

しかし、神が彼に告げられたことは何だったのでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかがめなかつた者たちである。」

ーローマ 11:5ー

ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。

まず、使徒パウロは、彼の時代において、イスラエル全土が救い主を拒絶したわけではない、という主張をしています。残された者がいました。全員が殺されて追放されたわけでもありません。残されていました。エリヤは残された者の一人でした。彼はそれを明確にしています。アブラハムの子孫であることをもって、その残りの者に属することをベニヤミン族に結びつけました。これは非常に重要なことです。

アブラハムの子孫だけでは、みんなイスラエル人ではないので、そう言っているのです。ついて来ていますか？ アブラハムの子孫の者だけがイスラエル人ではありません。忘れてはならないのは、イサクの前にイシュマエルがいたことです。そして、イサクの後、2番目の妻ケトラとの間にさらに6人の息子を

授かりました。(創世記 25:4 参照)

彼らはイスラエル人ではありません。ですから、先ほど御言葉の中で、ダビデについて語ったときに、「先祖とともに眠りについた」とありましたね? 「先祖たち」複数形です。先祖たちとは? アブラハム、イサク、ヤコブです。だから、聖書の至るところで、そう言われているのです。それが理由です。それが、イスラエル人であるための血統です。使徒パウロは、神は絶対にご自分の民を捨てられることはないを知っていました。そのため、同じ 11 章の 25 節と 27 節に続けて書いています。お読みします。そのため、同じ 11 章の 25 節と 27 節に続けて書いています。お読みします。

—ローマ 11:25—

兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えるようにするために、この奥義を知らずにおいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、

—ローマ 11:26—

こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。

—ローマ 11:27—

これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」と書いてあるとおりです。

ここで使徒パウロは、イザヤ書 59 章 20 節、21 節の前半を引用しています。「イスラエルは救われる。」私たちが読んだとき、イザヤ書 59 章の 21 節に、その全体像が収められていました。彼らもまた贖われることがわかります。必ず、永遠に、贖われます。神の御言葉が、何度も繰り返し語っている事実です。教会とは別の物理的なイスラエルのことを話しています。神の御言葉を教える者として、どうしてこのことがわからないのか、私には信じがたいことです。霊的な目隠しの話をしたいですか? 私にとっては、ローマ人への手紙 11 章に書かれていることの中で、使徒パウロが 28 節から 32 節で捉えたことほど、心に響くものはないのです。イスラエル人であるパウロが、当時ユダヤ人とともに異邦人から構成されていた仲間のクリスチャンに語りかけました。何か重いことを言わなければなりませんでした。しかし神は、すべての人を憐れんでくださいます。ここで 28 節から書かれている御言葉について考えてみましょう。

—ローマ 11:28—

彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、…

同胞のことです。考えてみてください。しかし、聞いてください。

…選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。

父祖たちとは? アブラハム、イサク、ヤコブです。

—ローマ 11:29—

神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。

—ローマ 11:30—

あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けています。

—ローマ 11:31—

それと同じように、彼らも今は、あなたがたの受けたあわれみのゆえに不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今あわれみを受けるためです。

ーローマ 11:32ー

神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。私たちは皆、全員が不従順であったため、誰一人として神の憐れみを受けるに値しないことを理解する必要があります。しかし、私たちが憐れみを得ることができるのは、イエス・キリストという神の選びの中から出てこられる方のおかげです。そこで問題になるのが、「神の選びの民」とは誰かということです。先ほどもお話ししましたね？「選ばれた者」神の選びの民とはだれかについて、マタイ 24 章 22 節に書かれています。21 節からお読みします。すぐに、なぜ私がそこから始めるのか分かるでしょう。

ーマタイ 24:21ー

そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。

ーマタイ 24:22ー

もしその日数が少なくされないなら、一人も救われられないでしょう。しかし、「選ばれた者たち」のために、その日数は少なくされます。

ここがまた別の箇所です。「教会が選ばれた者です。」

あなたがたは間違っています。これが、私が伝えようとしていることです。イエスは将来のことを話しています。それがわかりませんか？これが、教会が選ばれた民という意味ですか？聖書に示されていることから、それは断じて違います。間違いです。

新約聖書には、「選ばれた者」という言葉が 20 箇所以上出てくることを指摘したいと思います。ギリシヤ語から翻訳すると、「選ばれた」という意味になります。20 箇所。ついて来ていますか？

その使用例を紹介します。イエスはルカ 23 章 25 節で、神に選ばれた者と呼ばれています。御使いは「選ばれた者」と第一テモテ 5 章 21 節に書かれています。ユダヤ人のクリスチャンは「選ばれた人」と、第一ペテロ 1 章 1 節から 2 節に書かれています。そして、使徒パウロの働きは、第二テモテ 2 章 10 節に見られるように、主に選ばれた異邦人のために目的がありました。これらは、この言葉がどのように使われているか、20 種類ほどある箇所のうちのほんの一部です。文脈を理解し、御言葉を正しく読み解くことが、すべての違いを生みます。同意されますか？旧約聖書に目を向けると、選ばれた者に関するものとして、次のようなことが書かれています。イザヤ書 45 章 3 節から 4 節です。これはキュロスに対する神の御言葉です。お読みします。

ーイザヤ 45:3ー

わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。

ーイザヤ 45:4ー

わたしのしもべヤコブのため、わたしが”選んだ”イスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。

ですから、ここでは、神がイスラエルという国家を選ばれたと呼んでいることもはっきりわかります。ですから、イエスが語られた対象者を考えるとき、その時間枠と文脈、そして神の御言葉の完全な勧告を考慮することができ、マタイ 24 章やマルコ 13 章で、イエスが弟子たちに究極の話をされたとき、イエスが話された選ばれた者とは、イスラエル国家であったと結論づけることができます。もしあなたの教会がそうでないと信じているなら、おそらくそれは、御言葉を正しく読み解くことができないだけの問題で

しょう。もしそこが、預言の終末について語らない、黙示録に触れないということと一致しているなら、おそらく置換神学の教会にいらっしゃるでしょう。牧師が終末の預言について論じたり、黙示録を読み進めたりしないのには理由があります。できないからです。たくさん操作をしないと愚か者が問題があるのを見るからです。だから、いつも話題的になります。説教壇の後ろに政治を持ち込んで、社会問題ばかりを語ります。一節か二節は会衆が一斉に読み、その後座って、今読んだことについては何も語りません。もしくは、教会の建物代を払うために 500 万円の番組があるとか。しかし、私は神の御言葉の権威をもってお伝えします。イスラエルは救われるだけでなく、回復されます。黙示録 7 章 4 節から 8 節に書かれています。144,000 人の印を押された者がいます。お読みしませんが、スクリーンに出します。4 節を読んでみてください。1 節だけ読みましょう。

一黙示録 7:4一

私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

では、置換神学を教えている牧師はこれにどう答えるのでしょうか？ 彼らは何と言うのか？ 答えを言いましょう。もし、その箇所までたどり着いたとしても、彼らは何を言おうと、それは間違っているという結論になるのは当然です。置換神学を教えるなら、このことについて何を言っても間違っていることになります。締めくくりに、置換神学を採用していることで知られる教会を、短くリストアップしたいと思います。このリストは全く網羅的なものではありません。その中で、皆さんが読めるのは、スクリーンに収まる程度の量です。これらの宗派の中には、親元から離脱した団体や集まりもあるかもしれません。しかし、彼らの親はまだこのゴミの中で教えています。そのような教会の多くを、私たちは毎日通り過ぎているのです。しかし、それはそれです。この中には、ローマ・カトリックも含まれています。

すべてのカトリックと混同するわけではありませんが、ローマ・カトリックは絶対にそうです。南部バプテスト連盟内の多くの教会、米国聖公会、全米バプテスト連盟、アフリカ系メソジスト聖公会、キリスト連合教会、米国長老教会、統一メソジスト教会、米国福音ルーテル教会。ほんの一例です。リストが見えますか。この思想と密接に関係する他の団体があります。彼らがやっているのは、自分たちこそが本物のユダヤ人であり、教会になったのだと主張することです。ヘブライ・イスラエル人と呼ばれています。ユダヤ人だと信じているからありえないというのも、反ユダヤ主義的です。これは、カニエ・ウエストが従う教義です。だからユダヤ人に対し、自分こそ本物だと主張するようなツイートばかりしているのです。彼は病んでいます。たくさんの祈りが必要です。彼は自分が預言者だと信じています。ええ、サタンの預言者かもしれません。非常に悲しいことです。要するに、置換神学に居場所はありません。全くありません。もしあなたがこの嘘を教えている教会に行くなら、あなたは自分自身を霊的に傷つけていることになります。私たち一人ひとりが、日々自分自身で聖書を調べ、神の御言葉に対して、ベレア人のようなことを祈りましょう。(使徒の働き 17:10, 11 参照)

聖霊が私たちにふさわしい方法で影響を与え続けてくださるように。世の影響ではなく。クリスチャンであると主張する人なら誰でも、聖書には、霊を試しなさいと書いてあり、私たちもそうすべきです。

(Iヨハネ 4:1 参照)

もしあなたがクリスチャンなら、それを不快に思うべきではないのです。それを支持し、歓迎すべきです。イスラエルは救われ、完全に回復されます。私たちはこのことを教会として知っています。私たちは皆、それぞれの目的と計画があります。そして最後には、神が最終決定をされます。お立ちください。祈

りましょう。

天のお父さま、主よ、あなたが真理の御言葉を受け取られ、私たちが御言葉のより良い管理者となり、多くの問題を引き起こしている置換神学に埋もれている人々に御言葉を宣べ伝えることができるよう、この御言葉が私たちの心に響きますように。私たちの心をあなたに向け、目をあなたに向け続けることができるように助けてください。私たちが決して欺かれることなく、ただあなたの来臨によって受け入れられるように、あらゆることについて御言葉に目を向け続けさせてください。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝し、あなたを褒め称えます。救い主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7